

授業改善に向けた全学の取り組み

－授業評価と授業改善計画書の一体化－

高橋和子・影井清一郎・林義樹・種田保穂・矢口哲之・神崎奈緒美

横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部会

1. はじめに 横浜国立大学では、平成14年度から、全ての教養教育科目について学生による授業評価を実施すると共に、授業科目ごとに評価結果を担当教員に知らせて、教員各自の授業改善に活用してきた。今年度は、“教員が互いに協力して、よりよい授業を学生達に提供するための手がかりとすること”を目的として、学生による授業評価結果を踏まえて「授業改善計画書」を各教員が提出し、集録として公開する計画を遂行中である。この取り組みを紹介させて頂くと共に、前期講義終了時の中間評価として、改善計画の集録が「教員間の協力的取り組みとしてのデータ提供となり得るか」について検討を試みる。

2. 実施内容 横浜国立大学における学生による授業評価は、従来、それぞれの学部で行われてきた。教養教育科目については、平成14年度から、全科目について実施されている。平成16年度前期開講の教養教育科目は587科目、そのうち「学生による授業評価アンケート」は505科目(86%)が回収された。学生による評価結果は集計データと共に担当教員に知らせ、それを受けて9月初旬までに251科目(全科目の43%)の授業改善計画書が提出された(質問を下記に示す)。前期分の授業改善計画書の集録[1]は後期授業開始に合わせて前後期の講義担当者および本学の教員全員に配布された。(後期授業に関しても同様に実施され、いずれは、授業改善の評価を行う予定である。)なお、集録の発行は、“授業改善計画書の共有が本学教員の本格的な授業改善・開発活動の第1歩”という考えの下に行われ、「組織的自己改善」というFD活動の観点から[2]、学生による授業評価アンケートも含めて、人事考査のような授業改善以外の目的には使用しない前提で行われている。

授業改善計画書の質問項目

- [I] この授業の意図(授業のねらいや方法など)は、どのようなものでしたか。特に、どのような点に力を入れ、どのように工夫されましたか。
- [II] 上記の意図に照らして、実際の授業をどのように評価されますか。
- [III] 学生へのアンケート結果をご覧になって、どのようにお感じになりましたか。また、どう分析されましたか。
- [IV] この授業の成果や経験、学生へのアンケート結果などをふまえて、この授業をどのように改善されていくご計画ですか。
- [V] あなたの授業改善を進めていくために、本学のFD推進体制・学生授業評価アンケート・授業改善計画集録などのあり方について、ご意見・ご提案・ご質問・ご批判等がありましたらお書き下さい。
- [VI] その他、ご意見・ご提案・ご質問・ご批判等がありましたらお書き下さい。

3. 検 討

3.1 受講者数の影響 授業改善計画の作成や改善効果の評価には学生による授業評価を参考にすることから、評価結果の捉え方が問題となろう。

学生による授業評価と受講者数との関係の例を図1に示した。ここでの評価は「よい授業として他人に薦めたいか」を1から4の評点で聞いたときの平均値で示している。

(授業の理解度などの他の項目も同じ傾向が見られる。)授業改善の効果进行评估する際、受講者が多い講義では、学生による評価の平均という形で改善の効果を捉えるには検討が必要と思われる。

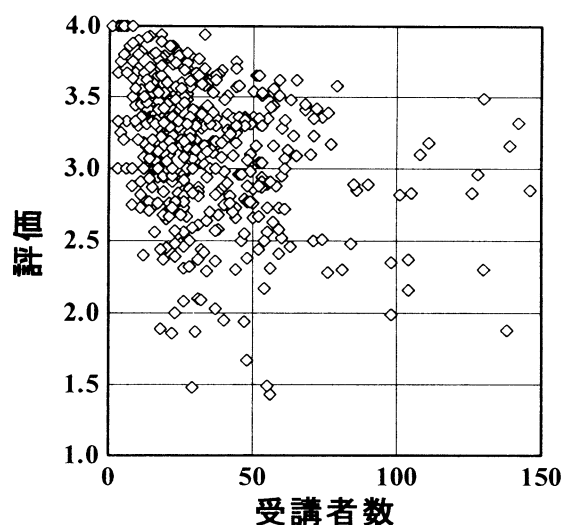


図1. 受講者数と評価

3.2 授業改善計画集録の偏り

今回は半数に近い講義担当者から授業改善計画書の提出があった。提出のあった講義となかった講義を学生の授業評価の相関図の上で示したのが図2である。横軸は「シラバスが授業で役に立ったか」、縦軸は「授業の内容が理解できたか」の設問に対する評点(1~4)の平均値である。学生の授業評価という点からは、集録されている講義の偏りは見られず、授業改善計画を参考とする際に、本集録が役立つものと期待される。

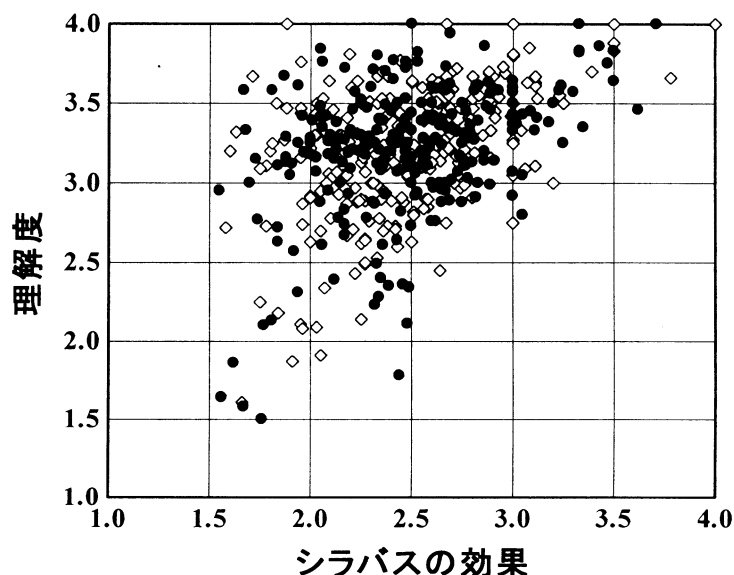


図2. 授業改善計画書の集録されている講義(●印)と集録されていない講義(◇印)

4. むすび 学生からの評価結果を踏まえた授業改善を試みた。これらの取り組みは言わば do-see-plan であり、評価と計画の一体化を図るものである。後期授業に関しても同様に実施し、年度末には前後期の結果を、授業担当者の批判も交えて、考察する。

参 考 [1]「授業改善に向けて 平成16年前期『学生による授業評価アンケート結果』『授業改善計画書収録』、横浜国立大学 大学教育センターFD推進部会「授業評価」関係WG、平成16年9月、300頁。[2]例えば、「長崎大学生涯学習叢書3 大学公開講座と評価」、長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会、国立印刷局、平成16年3月、pp.7-17。

連絡先 高橋和子、横浜国立大学 教育人間科学部、〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2、Tel&Fax : 045-339-3393、E-mail : kazuko@edhs.ynu.ac.jp